
<u>開場</u>	10：15
<u>開会の辞</u>	10：30
<u>研究発表</u>	10：35～12：35 張 威（立教大学異文化コミュニケーション研究科 博士前期課程） 植物をめぐるマルチスピーシーズ民族誌—茶栽培におけるフェラル・バイオロジー— 小宮 理奈（東京都立大学人文科学研究科 社会人類学教室 博士後期課程） 食をめぐる交渉—学校給食、お弁当とロヒンギャの母親 小澤 茉莉（東京工業大学環境・社会理工学院 修士課程） 動物倫理とシルク—蚕糸業における供養精神に注目して 森 昭子（東京都立大学人文科学研究科 社会人類学教室 博士後期課程） ガーナの都市部の看板絵群から考察するアートの創出
<u>休憩</u>	12：35～13：30
<u>総会</u>	13：30～14：00
<u>休憩</u>	14：00～14：20
<u>シンポジウム</u>	14：20～17：20

在来・地域知と科学知の融合はいかにして可能か？

「在来・地域知」(Indigenous and local knowledge: ILK)は、順応プロセスにより進化し、また文化的伝承による世代を超えて受け継がれた、人間を含む生き物同士および環境と生き物との関係についての知識、実践、信念の累積体と定義される。こうした在来・地域知は、地元の人びとが主体となって取り組む内発的発展および野生生物を含む自然資源の持続可能な利用・管理において重要な機能を果たすことが期待されてきた。

しかしながら、在来・地域知の存在形態は多様であり、かつ慣習法など制度的な側面とも密接に関連している。そして、内発的発展や持続可能な自然資源利用・管理に直結するものではないことをどのように受け止め、理解を深め、政策的含意を導けば良いのか。在来・地域知と科学知の融合はそもそも可能なのか、また可能であるとすればどのように可能なのか。

本シンポジウムでは、オーガナイザーによる問題提起に続き、有益な知見を提供してくれそうな2名（社会科学分野で学際研究を実施してきた方々）に話題提供していただく。そして、この問題に造詣の深い文化人類学者にコメンテーターとしてご登壇いただく。

オーガナイザー

井上 真 （早稲田大学／環境社会学・森林ガバナンス論・東南アジア地域研究）

パネリスト

井上 真

目黒 紀夫 （広島市立大学国際学部・准教授／アフリカ地域研究・環境社会学・開発社会学）

山田 奨治 （国際日本文化研究センター研究部・教授／情報学・文化交流史）

コメンテーター

松田 素二

タイムテーブル

- ・開会挨拶
- ・問題提起「在来・地域知のサステナビリティ」（25分）
井上真
- ・話題提供1「野生生物保全における在来・地域知～マサイ社会の伝統と潜在力から考える～」（25分）
目黒紀夫
- ・話題提供2「在来・地域知の取り扱いと利益還元～所有と拡散のバランス～」（25分）
山田奨治
- ・休憩（10分）
- ・コメント（25分）
松田素二
- ・パネルディスカッション（50分）
モデレーター：松田素二
パネリスト：目黒紀夫・山田奨治・井上真
- ・閉会挨拶

閉会の辞 17：20

※今回の総会・シンポジウムでは懇親会を行いません。

お問い合わせ先

〒162-8644 新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学学術院内 現代文化人類学会事務局

E-mail : vita-jimu@list.waseda.jp

Website : <https://currentanthropology.jimdofree.com/>